

みやぎ経済月報

(2021年4月)

令和3年5月6日

	目	次	
I	本県の経済概況	1
II	主な指標の動き	3
1	生産		
	鉱工業生産指数	2月	3
2	住宅投資		
	新設住宅着工戸数	2月	3
3	公共工事		
	公共工事請負金額	3月	3
4	個人消費		
	百貨店・スーパー販売額	2月	4
	コンビニエンスストア販売額	2月	4
	家電大型専門店販売額	2月	4
	ドラッグストア販売額	2月	5
	ホームセンター販売額	2月	5
	乗用車新車登録及び届出数	3月	5
	仙台市消費者物価指数	2月	6
5	雇用		
	求人倍率	2月	6
	所定外労働時間	2月	7
	実質賃金指数	2月	7
	雇用保険受給者実人員	2月	7
6	企業倒産	3月	8
III	宮城県景気動向指数（概要）	9
IV	全国・東北等の景況	10
V	主要経済指標	14
VI	宮城県の経済動向		
	令和2年 宮城県の経済動向	36

利用される方に

■ この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

■ 資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によるもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

■ 数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合もあります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 統計表の符号は次のとおりです。
 「▲」.....負数
 「…」.....数字が得られないもの
 「—」.....該当数字がないもの

■ 内容についてのご照会、ご意見は、
 宮城県企画部統計課
 （分析所得班）
 〒980-8570
 仙台市青葉区本町三丁目8番1号
 電話 022-211-2453（直通）
 にご連絡下さい。

■ 本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

宮城県統計課ホームページ
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/toukei/>

I 本県の経済概況

2月を中心とした宮城県経済の概要

新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる。

(変化方向※1)



前々月 前月 当月

指 標	動 向	変化方向※1
生 産	持ち直しの動きとなっている。	→
住宅投資	減少している。	→
公共投資	高水準で推移している。	→
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響などから、弱い動きとなっている。	→
雇 用	弱い動きとなっている。	→
企業倒産	落ち着いた動きとなっている。	→

※1… 前月と基調判断に変更がある場合は、矢印により表現の上方・下方修正を示しています。
絶対的な好況・不況の水準や方向感を示すものではないことに御留意願います。

○個別指標の動き（概要・下線部は前月からの主な変更箇所）

【生 産】

鉱工業生産指数（H27=100）（2月・速報値）は、前月比が2か月ぶりの低下、前年同月比は17か月連続の低下。

【住宅投資】

新設住宅着工戸数（2月）は、前年同月比が全体で2か月ぶりの減少。
分譲住宅は2か月連続の減少。
持家は4か月ぶりの減少。
貸家は2か月ぶりの減少。

【公共投資】

公共工事請負金額（3月）は、前年同月比が全体で4か月連続の減少。
その他※2は4か月連続の減少。県は3か月ぶりの減少。市町村は2か月ぶりの減少。国は3か月ぶりの増加。

※2…独立行政法人等，地方公社，その他

【個人消費】（百貨店・スーパー等，自動車，物価）

《百貨店・スーパー，コンビニエンスストア，専門量販店（2月・前年同月比）》

百貨店・スーパー販売額は、全店舗比較で4か月連続の減少。既存店比較でも4か月連続の減少。

コンビニエンスストア販売額は12か月連続の減少。

家電大型専門店販売額は2か月ぶりの増加。

ドラッグストア販売額は59か月ぶりの減少。

ホームセンター販売額は5か月連続の増加。

百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア，専門量販店販売額計（参考）は2か月連続の減少。

《乗用車（3月）》

乗用車新車登録及び届出台数（普通，小型，軽自動車の合計）は、前年同月比が2か月ぶりの増加。普通車は6か月連続の増加。軽自動車は6か月連続の増加。小型車は5か月連続の減少。

《物 価（2月）》

仙台市消費者物価指数（H27=100）のうち生鮮食品を除く総合指数は、前月と同水準、前年同月比は5か月連続の下落。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は、前月比が2か月ぶりの下落、前年同月比が2か月連続の上昇。

総合指数は、前月比が2か月ぶりの下落、前年同月比は4か月連続の下落。

【雇 用】

求人倍率（2月）は、有効が前月と同水準。新規が前月差で4か月ぶりの低下。

所定外労働時間（製造業，事業所規模30人以上）（2月）は、前年同月比（指数・H27=100）で2か月連続の増加。

実質賃金指数（製造業，事業所規模30人以上，H27=100）（2月）は、前年同月比で2か月ぶりの上昇。

雇用保険受給者実人員（2月）は、前年同月比が16か月連続の増加。

【企業倒産】

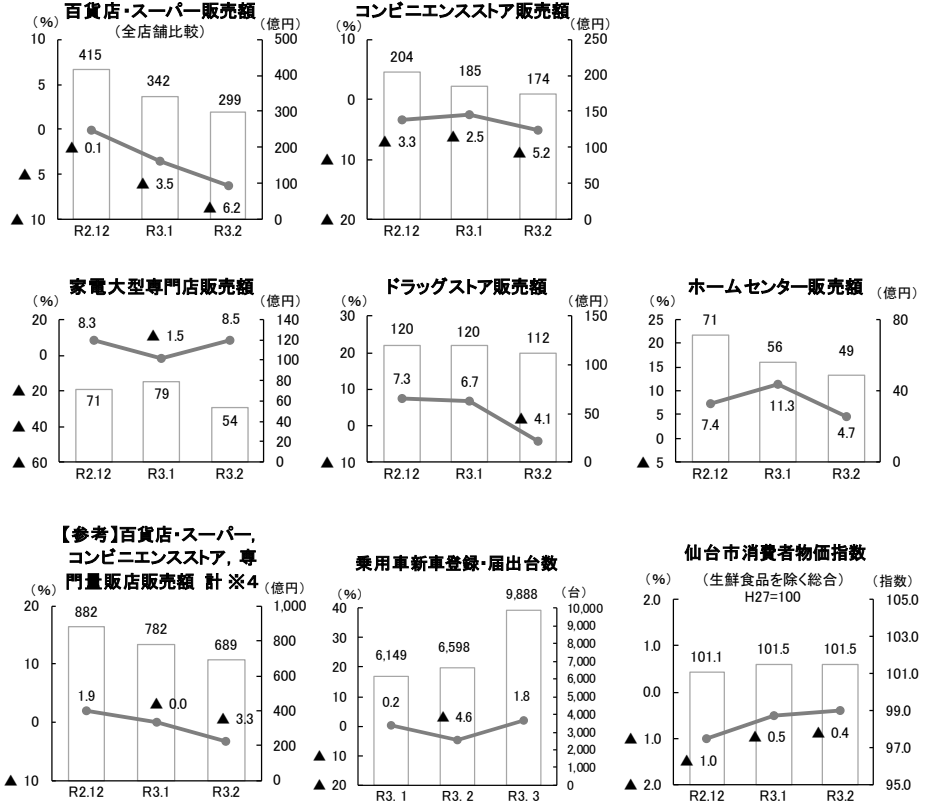
企業倒産（3月）は、件数が前年同月比で9か月ぶりの増加。負債総額は7か月ぶりの増加。

大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。

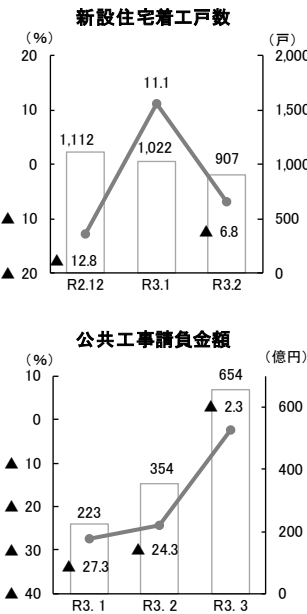
直近3か月の経済動向（前年同月比の動き）

は実数値（右目盛）
 は前年同月比の推移（左目盛）
 ※1前月比 ※2前月差 ※3指数
 ※4 各公表値（端数処理済）の合算値に基づく概算値

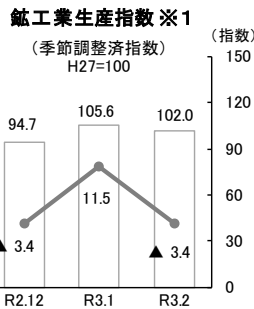
個人消費



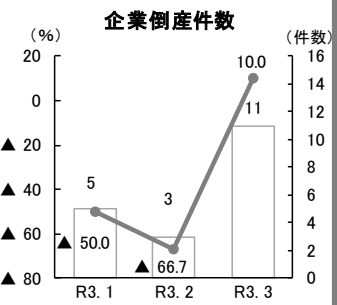
住宅投資 公共投資



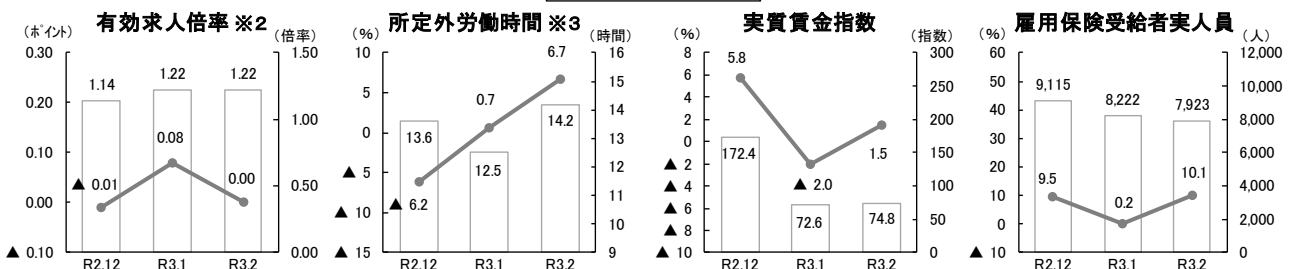
生産



企業倒産



雇用



II 主な指標の動き

1 生産

○ 鉱工業生産指数

2月の鉱工業生産指数（季節調整値，平成27年＝100）は102.0（速報値）で，前月比3.4%低下し，2か月ぶりの低下となった（図1，2）。

業種別にみると，17業種中，印刷業，汎用・生産用・業務用機械工業など8業種が上昇した。一方で，パルプ・紙・紙加工品工業，電子部品・デバイス工業など9業種が低下となった。

前年同月比（原指数）では8.8%低下し，17か月連続の低下となった。

（資料：県統計課）

→ 数値データは15ページに掲載

図1：前月比（季節調整済指数）

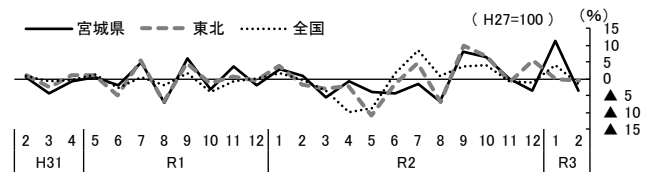
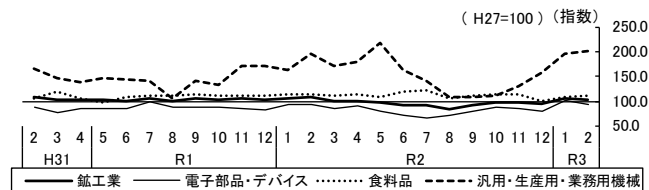


図2：季節調整済指数（宮城県）



2 住宅投資

○ 新設住宅着工戸数

2月の新設住宅着工戸数は907戸で，前年同月比6.8%減少し，2か月ぶりの減少となった（図3，4）。

利用別に前年同月比をみると，分譲住宅は22.4%減少し，2か月連続の減少となった。

持家は1.6%減少し，4か月ぶりの減少となった。

貸家は0.8%減少し，2か月ぶりの減少となった。

（資料：国土交通省）

→ 数値データは18ページに掲載

図3：前年同月比

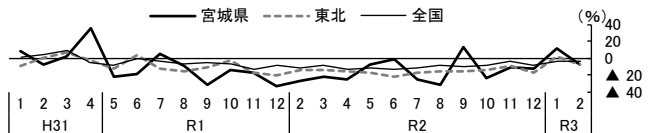
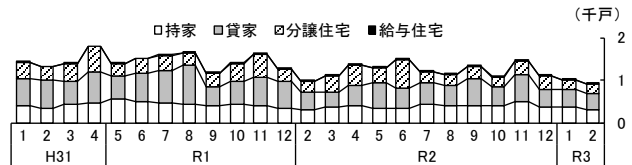


図4：戸数（宮城県）



3 公共投資

○ 公共工事請負金額

3月の公共工事請負金額は653億7,200万円で，前年同月比2.3%減少し，4か月連続の減少となった（図5，6）。

発注主体別に前年同月比をみると，その他（独立行政法人等，地方公社，その他）は5.8%減少し，4か月連続の減少となった。県は2.8%減少し，3か月ぶりの減少となった。市町村は1.0%減少し，2か月ぶりの減少となった。国は5.3%増加し，3か月ぶりの増加となった。

（資料：東日本建設業保証(株)）

→ 数値データは20ページに掲載

図5：前年同月比

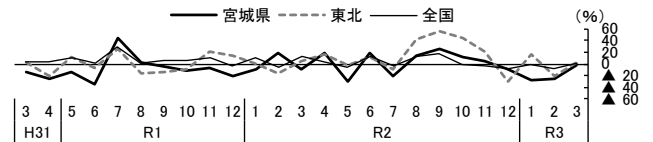
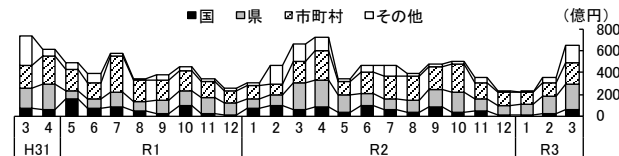


図6：金額（宮城県）



4 個人消費

(1) 百貨店・スーパー販売額

2月の百貨店・スーパー販売額は299億円で、全店舗比較では6.2%減少し、4か月連続の減少となった(図7, 8)。既存店比較は4.5%減少し、4か月連続の減少となった。

商品目別(全店舗比較)で見ると、その他商品(医薬品, 化粧品, 洗剤, 書籍等)は22.2%減少し、4か月連続の減少となった。衣料品は22.6%減少し、4か月連続の減少となった。飲食料品は1.7%減少し、13か月ぶりの減少となった。身の回り品は7.3%減少し、3か月連続の減少となった。食堂・喫茶は39.3%減少し、13か月連続の減少となった。家具・家電・家庭用品計は2.7%減少し、2か月連続の減少となった。

(資料: 東北経済産業局)

→ 数値データは21ページに掲載

(2) コンビニエンスストア販売額

2月のコンビニエンスストア販売額は174億円で、前年同月比5.2%減少し、12か月連続の減少となった(図9, 10)。

(資料: 東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

(3) 家電大型専門店販売額

2月の家電大型専門店販売額は54億円で、前年同月比8.5%増加し、2か月ぶりの増加となった(図11, 12)。

(資料: 東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図7: 前年同月比(全店舗, 百貨店・スーパー計)

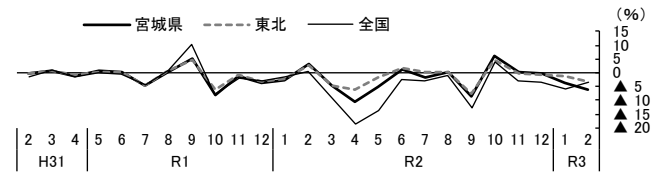


図8: 金額(宮城県)

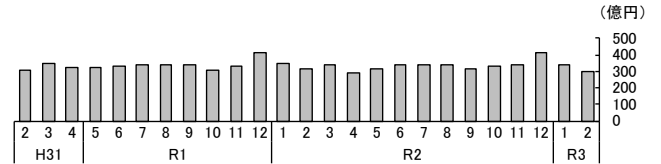


図9: 前年同月比

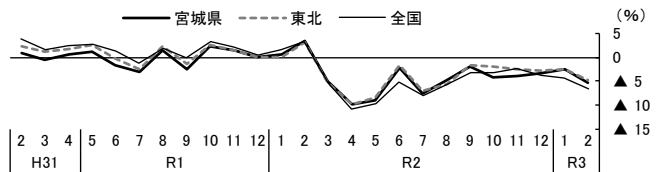


図10: 金額(宮城県)

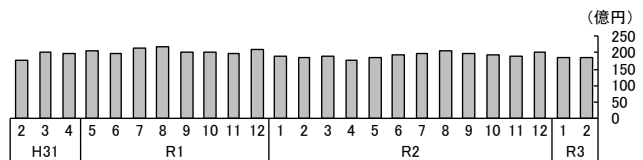


図11: 前年同月比

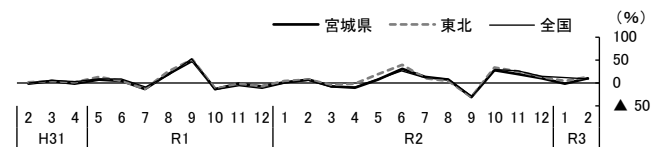
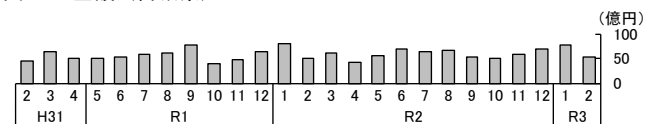


図12: 金額(宮城県)



(4) ドラッグストア販売額

2月のドラッグストア販売額は112億円で、前年同月比4.1%減少し、59か月ぶりの減少となった(図13, 14)。

(資料：東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図13：前年同月比

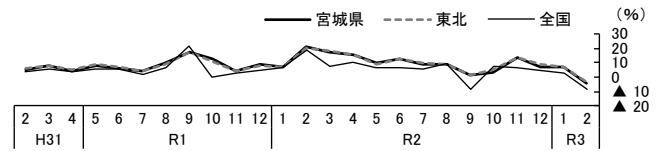
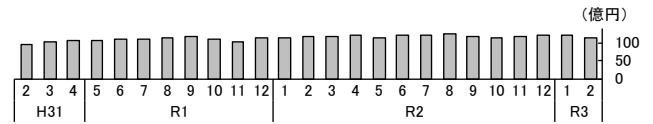


図14：金額(宮城県)



(5) ホームセンター販売額

2月のホームセンター販売額は49億円で、前年同月比4.7%増加し、5か月連続の増加となった(図15, 16)。

(資料：東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図15：前年同月比

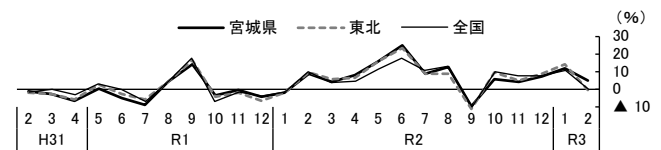
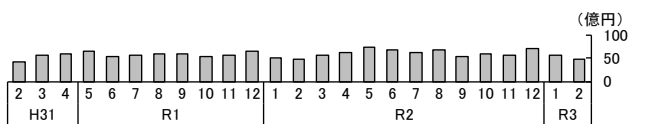


図16：金額(宮城県)



(6) 百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額計(参考値*)

2月の百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額計(参考値)は689億円で、前年同月比3.3%減少し、2か月連続の減少となった(図17, 18)。

※4(1)～(5)各公表値(端数調整済)の合算による概算値。

(資料：東北経済産業局)

図17：前年同月比

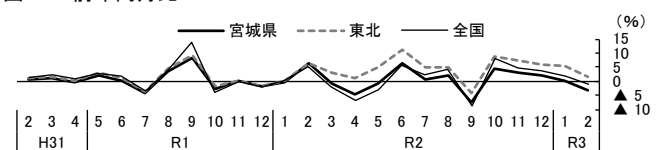
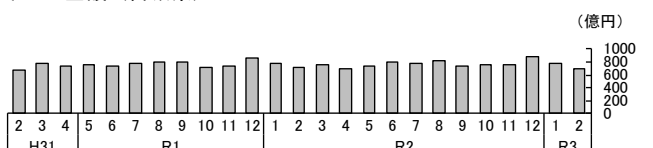


図18：金額(宮城県)



(7) 乗用車新車登録及び届出台数

3月の乗用車新車登録及び届出台数(普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計)は9,888台で、前年同月比1.8%増加し、2か月ぶりの増加となった(図19, 20)。

車種別に前年同月比をみると、普通車は14.7%増加し、6か月連続の増加となった。軽自動車は7.5%増加し、6か月連続の増加となった。小型車は15.4%減少し、5か月連続の減少となった。

(資料：東北運輸局，全国軽自動車協会連合会)

→ 数値データは25ページに掲載

図19：前年同月比(普通車，小型車，軽自動車)

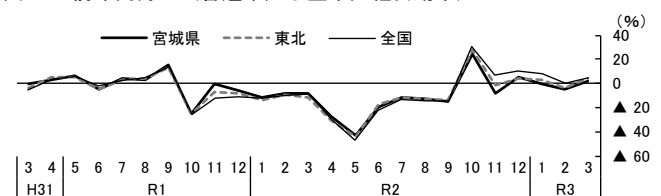
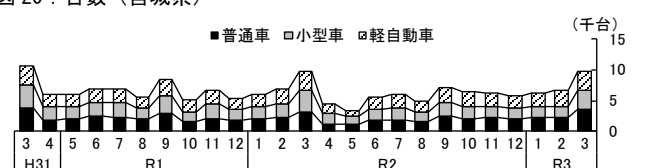


図20：台数(宮城県)



(8) 物価

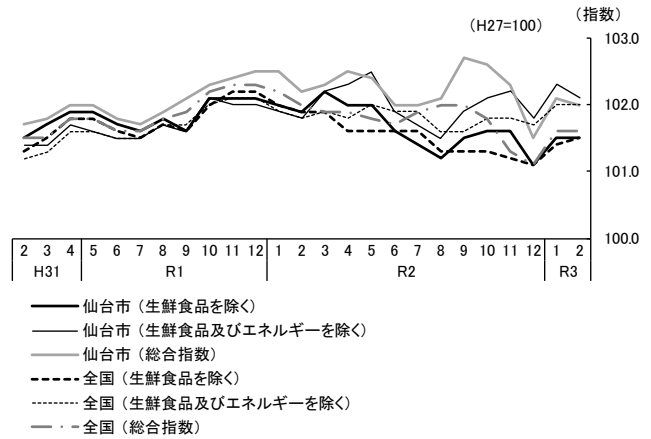
2月の仙台市消費者物価指数を前月比で見ると、生鮮食品を除く総合指数(平成27年=100)は101.5で同水準となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数(同)は102.1で、前月比0.1%下落し、2か月ぶりの下落となった。総合指数(同)は102.0で、前月比0.1%下落し、2か月ぶりの下落となった(図21)。

前年同月比で見ると、生鮮食品を除く総合指数(同)は0.4%下落し、5か月連続の下落となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数(同)は前年同月比0.3%上昇し、2か月連続の上昇となった。総合指数(同)は0.1%下落し、4か月連続の下落となった。

(資料：県統計課)

→ 数値データは29ページに掲載

図21：消費者物価指数



5 雇 用

(1) 求人倍率

2月の有効求人倍率(季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)は1.22倍で、前月と同水準となった。新規求人倍率(同)は1.89倍で、前月を0.16ポイント下回り、4か月ぶりの低下となった(図22)。

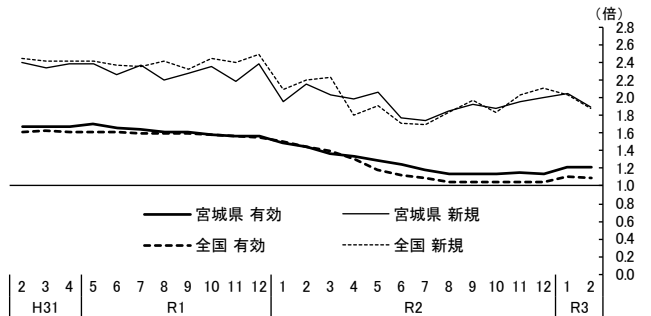
有効求人数及び新規求人数(原数値、新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効は前年同月比11.5%減少し、26か月連続の減少となった。新規は前年同月比10.4%減少し、19か月連続の減少となった。

新規求人数を産業別にみると、公務・その他で増加となった。一方で、宿泊業、飲食サービス業、医療・福祉、運輸業、郵便業などで減少となった。

(資料：宮城労働局)

→ 数値データは31, 32ページに掲載

図22：求人倍率(季節調整済)



(2) 所定外労働時間

2月の所定外労働時間（製造業，事業所規模30人以上，1人平均月間）は14.2時間で，前年同月比（指数，平成27年=100）が6.7%増加し，2か月連続の増加となった（図23，24）。

（資料：県統計課）

→ 数値データは33ページに掲載

図23：前年同月比（製造業・30人以上，指数(H27=100)）

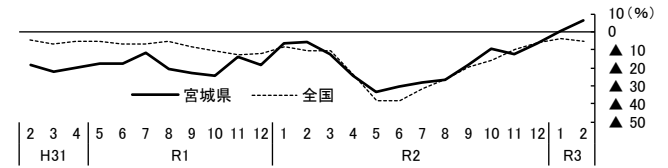
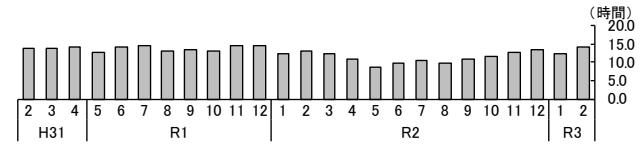


図24：時間数（宮城県，製造業・30人以上）



(3) 実質賃金指数

2月の実質賃金指数（平成27年=100，現金給与総額，製造業，事業所規模30人以上）は74.8で，前年同月比が1.5%上昇し，2か月ぶりの上昇となった（図25，26）。

（資料：県統計課）

→ 数値データは33ページに掲載

図25：前年同月比（製造業・30人以上）

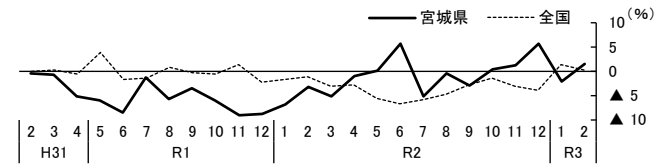
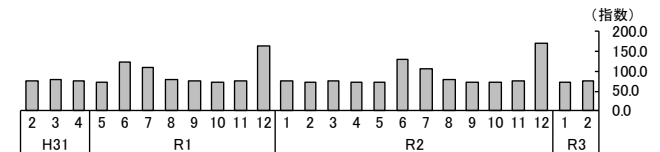


図26：指数



(4) 雇用保険受給者実人員

2月の雇用保険受給者実人員は7,923人で，前年同月比10.1%増加し，16か月連続の増加となった（図27，28）。

（資料：宮城労働局）

→ 数値データは33ページに掲載

図27：前年同月比

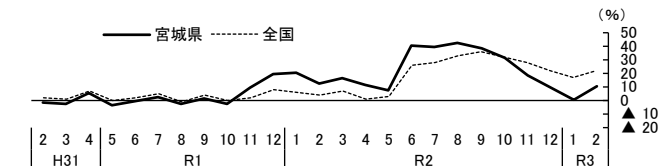
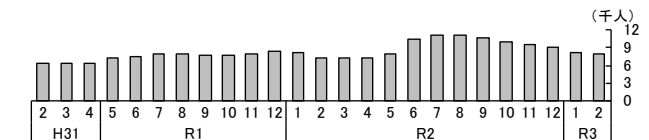


図28：人数（宮城県）



6 企業倒産

3月の企業倒産（負債総額1,000万円以上）は11件で、前年同月比10.0%増加し、9か月ぶりの増加となった（図29）。負債総額は6億4,900万円で、前年同月比4.0%増加し、7か月ぶりの増加となった（図30）。

大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。

不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ（赤字累積））の件数は10件となり、全体に占める構成比は90.9%となった。

（資料：株東京商工リサーチ）
→ 数値データは34ページに掲載

図29：前年同月比（件数）

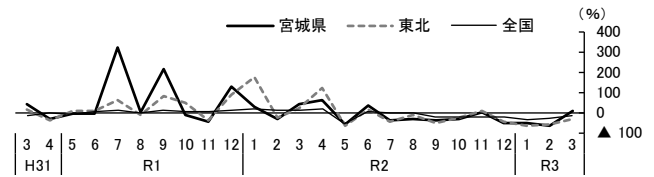
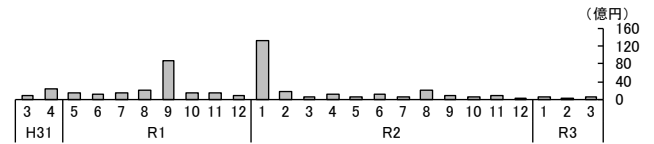


図30：負債総額



【用語解説】

- **指数**：ある統計データについて、100又は1を基準とした数値で表し、時間的な変化や比率などをわかりやすくしたもの。

（例）りんごの価格の指数を求めてみます。基準年を平成27年とした場合、平成27年のりんごの価格指数は100となります（H27=100）。りんごの平成27年の平均価格が30円で、今月の価格が31円だった場合、今月のりんごの価格の指数は、30円=100なので、比例計算で以下のとおり103.3となります。

$$(\text{りんごの価格指数}) \quad 31 \text{ 円} \div 30 \text{ 円} \times 100 = 103.3$$

- **季節調整**：経済に関する時系列データについて、真の変動を把握するため、元データから季節による変動分（季節変動*）を取り除くこと。

※ 季節変動（季節性）の例

- ・ 夏にかき氷の販売が増える。
- ・ 冬にストーブの販売が増える。
- ・ 決算対策のため中間決算や決算の時期に生産や販売が増加する。

- **前月（期）比**：前月（期）からの変化率。

$$\text{前月（期）比} = \frac{\text{当月（期）の値} - \text{前月（期）の値}}{\text{前月（期）の値}}$$

* **足元の動き**を見るための目安になります。季節変動のあるデータについては季節調整済の値により比較します。

- **前年同月（期）比**：前年の同じ月（期）からの変化率。

$$\text{前年同月（期）比} = \frac{\text{当月（期）の値} - \text{前年の同じ月（期）の値}}{\text{前年の同じ月（期）の値}}$$

* 季節変動があるため単純に前月（期）と比較することができないものについては、前年の同じ月（期）と比較することで、季節的な要因を考慮せずに変化の方向性が見やすくなります。ただし、大規模災害など前年に特別な出来事の発生により大きく増減した場合には、その反動により当月（期）も大きく増減するので注意が必要です。

Ⅲ 宮城県景気動向指数（概要）

1 概況

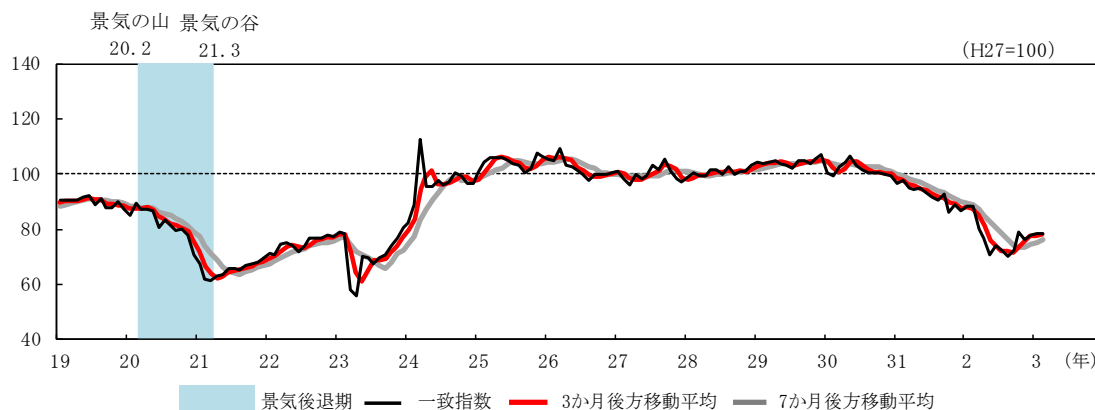
令和3年2月のC I（H27=100）は、先行指数 100.6、一致指数 78.3、遅行指数 69.1となった。
 先行指数は前月差で1.6ポイント下降し、6か月ぶりの下降となった。
 一致指数は前月差で0.2ポイント下降し、3か月ぶりの下降となった。
 遅行指数は前月差で2.4ポイント上昇し、2か月連続の上昇となった。

2 景気動向指数（C I）の推移及び個別系列の寄与度（H27=100）

系列名	令和2年				令和3年		
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
C I 先行指数	90.7	94.0	94.9	97.4	102.2	100.6	
前月差（ポイント）	4.4	3.3	0.9	2.5	4.8	-1.6	
3か月後方移動平均	88.2	90.3	93.2	95.4	98.2	100.1	
7か月後方移動平均	86.9	87.2	88.6	91.0	93.3	95.2	
L1 新規求人数（学卒除く、パート）	0.29	0.85	-0.85	-0.15	1.13	-0.49	1
L2 投資財生産指数	-0.12	0.21	0.77	1.59	0.80	0.73	2
L3 生産財生産指数	4.21	1.20	0.15	-1.32	2.91	-3.22	3
L4 日経商品指数（42種）	0.06	0.55	0.51	1.01	1.05	1.95	4
L5 乗用車新車新規登録台数（軽含む）	0.05	0.36	-0.07	0.57	-0.77	-0.97	5
L6 新設住宅着工床面積	0.33	-0.36	0.60	-0.20	0.23	-0.20	6
L7 全銀貸出残高（前年同月比）	-0.47	0.12	0.21	0.43	-0.24		7
L8 中小企業業界景況感（前年同月比）	0.22	0.39	-0.39	0.60	-0.14	0.55	8
一致トレンド成分	-0.16	-0.05	-0.06	-0.02	-0.07	-0.03	
C I 一致指数	72.3	78.9	76.1	78.0	78.5	78.3	
前月差（ポイント）	2.0	6.6	-2.8	1.9	0.5	-0.2	
3か月後方移動平均	71.7	73.8	75.8	77.7	77.5	78.3	
7か月後方移動平均	73.8	73.7	73.5	74.6	75.2	76.1	
C1 所定外労働時間指数（調査産業計）	1.06	0.91	-1.09	0.20	-0.14	-0.23	1
C2 有効求人倍率（合計）	-0.07	0.15	0.36	-0.21	2.12	0.21	2
C3 実質定期給与指数（製造業）	0.29	0.65	-0.70	2.34	-2.60	0.78	3
C4 鉱工業生産指数	1.58	1.39	0.02	-0.75	2.42	-0.78	4
C5 百貨店・スーパー販売額（前年同月比）	-1.90	3.27	-1.21	0.21	-0.92	-0.69	5
C6 輸入通関実績	0.98	0.21	-0.12	0.07	-0.37	0.51	6
C I 遅行指数	64.2	66.1	66.8	65.0	66.7	69.1	
前月差（ポイント）	0.5	1.9	0.7	-1.8	1.7	2.4	
3か月後方移動平均	64.0	64.7	65.7	66.0	66.2	66.9	
7か月後方移動平均	68.5	67.1	65.9	64.9	65.2	65.9	
Lg1 離職者数（事業主都合）〔逆〕	-0.27	0.14	1.16	-0.40	-0.24	-0.57	1
Lg2 雇用保険受給者実人員〔逆〕	0.48	1.21	0.55	1.14	0.58	-0.25	2
Lg3 消費者物価指数（仙台市，前年同月比）	1.33	-1.34	0.03	-1.32	1.40	0.30	3
Lg4 勤労者世帯消費支出（仙台市，前年同月比）	-0.19	1.74	-0.60	-1.52	0.04	2.72	4
Lg5 営業倉庫保管残高	-0.56	0.36	-0.02	-0.43	0.27	-0.22	5
Lg6 法人事業税調定額	-0.20	-0.16	-0.38	0.79	-0.32	0.48	6
一致トレンド成分	-0.12	-0.04	-0.04	-0.01	-0.05	-0.02	

（注）〔逆〕は逆サイクル系列を表す。

3 景気動向指数（C I）一致指数グラフ



IV 全国・東北等の景況

1 全国の景況

月例経済報告（内閣府） 4月22日

[<https://www.cao.go.jp/>]

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

- ・個人消費は、このところ弱含んでいる。
- ・設備投資は、持ち直している。
- ・輸出は、増加テンポが緩やかになっている。
- ・生産は、持ち直している。
- ・企業収益は、感染症の影響により、非製造業では弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している。企業の業況判断は、厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、雇用者数等の動きに底堅さもみられる。
- ・消費者物価は、横ばいとなっている。

先行きについては、感染拡大の防止策を講じるなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待されるが、内外の感染拡大による下振れリスクの高まりに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

経済・物価情勢の展望 —展望レポート— 基本的見解（日本銀行） 4月27日

[<https://www.boj.or.jp/>]

わが国の景気は、内外における新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している。海外経済は、国・地域ごとにばらつきを伴いつつ、総じてみれば回復している。そうしたもとで、輸出や鉱工業生産は増加を続けている。また、企業収益や業況感は全体として改善している。設備投資は、一部業種に弱さがみられるものの、持ち直している。雇用・所得環境をみると、感染症の影響から、弱い動きが続いている。個人消費は、飲食・宿泊等のサービス消費における下押し圧力の強まりから、持ち直しが一服している。住宅投資は緩やかに減少している。公共投資は緩やかな増加を続けている。わが国の金融環境は、企業の資金繰りに厳しさがみられるものの、全体として緩和した状態にある。物価面では、消費者物価（除く生鮮食品、以下同じ）の前年比は、感染症や既往の原油価格下落の影響などにより、小幅のマイナスとなっている。また、予想物価上昇率は、横ばい圏内で推移している。

2 東北の景況

管内（東北6県）の経済動向（東北経済産業局） 4月15日

[<https://www.tohoku.meti.go.jp/>]

緩やかに持ち直している

- ・ 鉱工業生産：持ち直している
- ・ 個人消費：持ち直しの動きに足踏みがみられる（↓）
- ・ 住宅着工：弱まっている
- ・ 公共投資：このところ増加している
- ・ 設備投資：弱含みとなっている
- ・ 雇用：弱い動きとなっている
- ・ 企業倒産：落ち着いた動きとなっている

（※前月と基調判断に変更がある場合は矢印で上下を示している。）

経済の動き（日本銀行仙台支店） 3月23日

[<https://www3.boj.or.jp/sendai/>]

東北地域の景気は、引き続き厳しい状態にあるが、全体としてみれば持ち直し基調にある。ただし、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響から、対面型サービス消費を中心に下押し圧力が強い状態が当面続くとみられる。

最終需要の動向をみると、公共投資は、緩やかに増加している一方、設備投資は、弱めの動きとなっている。個人消費は、足もと持ち直しの動きが一服している。住宅投資は、減少している。この間、生産は、増加している。雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を下回っている。

地域経済報告—さくらレポート—（日本銀行） 4月15日

[<https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/>]

東北地域の景気は、引き続き厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している。もっとも、足もとはサービス消費を中心に新型コロナウイルス感染症再拡大の影響が強まっているとみられる。

最終需要の動向をみると、公共投資は、緩やかに増加している。設備投資は、一部の業種に弱さがみられるものの、持ち直しつつある。個人消費は、持ち直しの動きが一服している。住宅投資は、減少している。この間、生産は、増加している。雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を下回っている。こうした中、企業の業況感、一部の業種に弱さがみられるものの、改善している。

3 宮城県の景況

宮城県経済の動き（七十七リサーチ&コンサルティング株式会社） 4月21日

[<https://www.77rc.co.jp/>]

総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動や新型コロナウイルスに伴う経済活動の制約などから、総じて厳しい状況が続いている。

概況

生産は持ち直しに向けた動きとなっている。需要面の動きをみると、公共投資は減少基調であるが、復旧工事などにより高めの水準で推移している。住宅投資は震災に伴う建替需要や再開発の反動などにより弱含んでいる。個人消費は基調としては持ち直しているが、新型コロナウイルスの影響による下押しが強まっている。雇用情勢は労働需要の減少が広がり、総じて弱めの動きとなっている。

